



## 人権教育講演会 「世界7大陸を走って学んだ前向きに生きる力」



- 日時 令和4年11月30日(水) 5・6限
- 場所 阿波西高校 体育館
- 講師 プロアドベンチャーランナー 北田 <sup>たかお</sup>雄夫 さん

北田雄夫さんは、日本唯一のプロアドベンチャーランナーで、2017年に日本人として初めて「世界7大陸アドベンチャーマラソン走破」を達成され、現在も世界各地で行われるレースに挑戦されています。アドベンチャーマラソンは、世界で最も過酷なマラソン競技といわれ、雪山や砂漠、極地など、壮大な大自然を舞台に行われ、数十日かけて数百キロを走破するようなレースもあるそうです。会社員を経て30

歳でアドベンチャーランナーとなった北田さんが、これまでの経験のなかで学んでこられた「弱さや失敗を受け入れて前に進むことの大切さ」や「成功よりも成長」というお話を、過酷なレースの映像を交えながら熱く語っていただきました。北田さんのお話から、高い目標に向かって挑戦することの素晴らしさや、困難に打ち勝つためのヒントを学ぶことができ、自分らしく生きることについて考える良い機会となりました。また、「今できることを積み重ねていくことで可能性が広がる」という言葉や、「困難にぶつかってくじけそうになっても立ち上がり前進することで成長できる」というメッセージは私たちの心に響き、勇気をもらいました。

### 《生徒の感想より》

- 北田さんのお話を聴いて、人間はたくさんのチャレンジをすることで自分の可能性が広がり、新たに成長した自分に出会うことができるんだと知りました。初めはできないことでも何度もめげずにチャレンジする、強い精神を持った人だと思いました。(1年)
- 今日の講演を聴いて、「弱音を吐くことも大切なんだな」と思いました。私は今まで「気分が落ちるから弱音を吐いたらだめ」と思っていたのですが、北田さんのお話を聴いて、「適度に弱音を吐くことで気持ちが楽になる」という考えが変わりました。そして、壁にぶつかってもミスを恐れず乗り越えようと思えました。(2年)
- 北田さんが挑戦しているアドベンチャーマラソンはとても過酷なレースで、私だったらすぐにあきらめてしまうと思います。私は勉強からすぐに逃げてしまうので、北田さんを見習って、受験に向けてあきらめずにやりきりたいです。(2年)
- 北田さんのお話を聴いて自分の視野が広がった気がしました。初めて聞く言葉やマラソン中の動画に感動を覚えました。そして、まだ始めていることの失敗を想像するのは無駄だし、例え失敗したとしてもそれをポジティブに受け入れれば良いと前向きな気持ちになれました。(3年)
- 私は今回の講演で、「成功よりも成長」という言葉が心に残りました。アドベンチャーマラソンのお話を聴いて、いろいろな困難を乗り越えながら必死に頑張る姿に感動しました。自分もこれから社会に出てさまざまな困難に出会うなかで、今自分はどのようなべきかを考えながら目の前のことに向き合おうと思えました。(3年)



## 第3学年 人権学習ホームルーム活動 「結婚差別について」 R4.10.26

婚姻は、両性の合意のみに基づいて成立するものとして、憲法によって結婚の自由が保障されていますが、いまだに解決しきれていない不合理な差別が残っているのが現状です。授業では、結婚差別のいくつかの事例を取り上げ、「自分が当事者だったらどうするか」「友達から相談されたら自分ならどうするか」「結婚差別の要因にはどのようなものがあるか」などについて考え、意見を発表しました。この学習を通して、かつての同和地区に対する偏見や「世間体」重視の考え方など、間違った考え方や差別意識を見抜き、周りに流されない行動をとることの大切さについて学びました。そして、これから社会に出るにあたって、一人ひとりが正しい知識を持って、差別のない社会づくりに向けた行動をとることが大切であることを再確認しました。

### 《生徒の意見より》

- ◇自分が結婚するときに差別したくもないしされたくもない。親になって自分の子が結婚するときに相手がどこ出身だろうと差別をしないような人になりたいと思った。
- ◇自分の人生は自分で決められるように正しい知識を身につけて今後に生かしていきたい。
- ◇今日の授業を通して、もしこの先好きな人ができたら、その人自身のことをしっかり見ていきたいと思った。
- ◇今だに結婚差別があることに驚いた。相手の性格や、自分を理解してくれているかなど、相手がどういう人間かを見て判断すれば良いと思う。
- ◇出身地によって結婚差別や就職差別をするのはおかしいと思う。差別は幸せになる権利を奪うことなので、なくしていかなければいけない。



## 第1学年 人権学習ホームルーム活動

- 日時 令和4年10月26日(水) 6限
- 場所 各HR
- 主題 「アサーショントレーニング」

1学年では、アサーショントレーニングを行いました。アサーションとは、自分も相手も大切にしたいさわやかな(アサーティブな)自己表現のことをいい、自分の考えや気持ちをその場に合った適切な方法で述べることで対人関係をよくするものです。授業ではいくつかの具体的な場面を想定して、自分ならどう言うか、意見を出し合い、実際にロールプレイを行って適切な自己表現について考えました。そして、自分も相手も互いに気持ちのよい人間関係を築くためには、攻撃的でも受け身的でもない、相手の意見や気持ちも大切にしながら自分の考えをうまく相手に伝えるアサーティブな自己表現が大切であることを学びました。



### 《生徒の感想より》

- ◆自分も相手も傷つけないように、アサーティブを意識してコミュニケーションをとることを大切にしたい。
- ◆自分の気持ちをしっかりと伝えつつ、人を不快にさせないように気をつけたい。
- ◆アサーショントレーニングでとてもよい経験ができました。相手に自分の気持ちを伝えることが苦手で、どのように気持ちを伝えたらよいかわからなかったけど、今回の学習で気持ちの伝え方がわかりました。なので、これからはアサーショントレーニングで学んだことを生かしていけるようにしたいです。

## 第2学年 人権学習ホームルーム活動

- 日時 令和4年11月16日(水) 6限
- 場所 視聴覚教室
- 主題 「アイヌの人びとについて」

2学年では、北海道修学旅行を前に、アイヌの人びとについて学習しました。アイヌは、現在の北海道全域や東北地方の一部、千島列島・樺太などに先住していた人びとで、独自の言語と文化をもって暮らしていました。しかし、明治以降の日本政府による同化政策により、生活基盤や独自の文化を奪われ、日常生活において偏見によるさまざまな差別を受けてきました。この問題を解決

するため、平成9年に「アイヌ文化振興法」が施行され、アイヌの言語と文化の保存と復興が明記されました。平成20年には「アイヌ民族を先住民とすることを求める決議」が可決、令和元年にはアイヌ民族を法律としてはじめて「先住民族」として明記した「アイヌ施策推進法」が施行され、地域・産業・観光の振興なども含めた総合的な施策が進められています。令和2年に、アイヌ文化の復興・発展の拠点として北海道白老町に「民族共生象徴空間(愛称“ウポポイ”)」が設立されたのもその一つです。私たち一人ひとりがアイヌの人びとの歴史や文化を正しく理解し、偏見や差別のない共生社会を築くことが大切であるということを学習しました。

### 《生徒の感想より》

- 今回のアイヌ文化の鮭の捕獲に関して、ルールを守る職員も伝統を守りたい側も両者とも悪くなくて心が痛みました。双方の意見の合致するところを早く見つけてほしいです。
- アイヌ文化を含め、日本古来の民族の生活や独自の文化を大切にしていきたいと思いました。
- 現在も認められていない行為などがあることがわかったが完全にどちらかの味方になることもできず、難しかったです。でもアイヌの文化、伝統を認めるべきだと思いました。

